

## JICAの有識者会合 から

JICA（独立行政法人国際協力機構）は1日、JICA食と農の協働プラットフォーム（JIPFA）アフリカ農業分科会AFICAT（日・アフリカ農業イノベーションセンター）事業進捗報告会ならびに有識者会合をWeb開催した。

ニアの5カ国でパイロット活動を実施してきたと説明。24年2月からは新たなフェーズとして「サハラ・アフリカ地域先進農業技術の導入を通じた農業機械化展開に係る情報収集・確認調査」を進めており、新フェーズ開始から1年が経過して

「一 課長・山崎潤氏及  
株かいはつマネジメン  
コンサルティング地域  
業開発部コンサルタント  
・池ヶ谷二美子氏がそ  
ぞれ報告を行った。両  
によると、AFICA  
は①広域アドバイス②  
示・実証・デモンスト  
ーション③ビジネスモ

び3ヵ国でAFICATEト員会／同事務局を設置産日本国内でも、日本各企業による現地観察会トのアフリカ進出を手助けすべく、情報交換会などを通した現地情報提供へ氏各企業による現地観察会トの実施支援、アフリカ現地における技術・製造の常設展示などを実行する。

立。  
「Cropscop」  
した農業支援システム  
企業を広げる取り組み  
を広げる取り組み  
伝えう  
こを  
・AI技術を用いて  
や、  
なデータを1つのサ  
祭な  
スに集約し、圃場ご  
リカ  
農業アドバイスや收  
穫品  
測、灌漑の自動制御  
などを提供して最適

テムいきたいなどと語  
「e」 株クボタ・田中士  
を紹は同社がAFICO  
CT ①広域アドバイス  
必要び②展示機能を中心  
ービ用した実績を紹介  
とには同社エンジン事業  
種予部がAFICATを  
機能てケニア農業機械  
な営機械化状況をヒアリ

つた。麻衣氏が参加し、意見交換した。ATの②ではAFICATによる機能及る4カ国（タンザニア、ケニア・ガーナ・コートジボワール）の5展示会に参加し、同社のカタログを実施したほか、タンザニア・ケニアにも化局にAFICAT常設機関としての機能を及ぼす。アフリカ開拓の第一歩となる。

開会挨拶したJICA上級審議役の山口博之氏は、JICAが進めるA FICAT事業について、サブサハラ・アフリカ地域に農業機械を含む日本の先進技術の導入を推進することを目的としたものであり、JICAは同事業の本格稼働に向けて、2022年2月~24年2月まで「アフリカ地域先進農業技術の導入を通じた農業機械化振興」に係る情報収集・確認調査を行い、タンザニア・コートジボワール・ナイジェリア・ガーナ・ケ

**A F I C A**

# CAT事業

# アフリカ進出の実業

# 報告 出支援

アフリカ。そのうえで今後のオンライン FICATについて、現状や等の入力ケニン等の実施し、統的な活動の実施に加えて、サンプル機の購入及び現地での展示・貸出や各国の統計データの整備などにも期待を寄せた。

有識者コメントでは、これらの報告を踏まえ、日農工・石井伸治氏や日本農業機械化協会・藤盛隆志氏、JICA・大石常夫氏、新潟大学・長谷川英夫教授、(株)新農林・岸田義典氏がAFICATの異なる活用に向けて意見を交わした。



## 有識者会合の画面

アで開催された農業懇談会に同社のケニア拠点であるKubota Ke ny a L im ite d が参加し意見交換した。②ではAFICATによる4カ国（タンザニア・ジボワール）の5展示会に参加し、同社のカタログ展示を実施したほか、タンザニア・ケニアにおけるAFICAT常設展示にカタログを展示した。そのうえで今後のAFICATについて、継続的な活動の実施に加えて、サンプル機の購入及び現地での展示貸出や、各国の統計データの整理などにも期待を寄せた。

有識者コメントでは、これらの報告を踏まえ、日農工・石井伸治氏や日本農業機械化協会・藤盛隆氏、JICA・大石常夫氏、新潟大学・長谷川英夫教授、(株)新農林社・岸田義典氏がAFICATの更なる活用について意見を交わした。